

論文要旨

中国人日本語学校生の自己効力を活かした進路選択—日本語教師のサポートに着目して—

村越 彩

日本の高等教育機関で学ぶ留学生の一部は日本語学校から進学をしている。最も多いのが中国人日本語学校生であり、その中には進学先でなぜ学び、今後のキャリアをどう考えるかという視点を持たず、合格という短期的目標を達成することを目的とする者もいる。日本語学校在学中に進路選択をしない、あるいはできない要因として、進路選択自己効力が関わっている可能性があり、理論的には自己効力に働きかけることで望ましい行動が生起すると考えられている。そこで、本研究は中国人日本語学校生がどのように進路を選択しているのか、その進路サポート、進路選択自己効力、進路探索行動に着目して実証研究を行ない、その背景について検討することを目的とした。

第1章は中国における社会的状況と、現在の私費留学生の主流である1980年代～1990年代に生まれた若者の日本留学との関連について概観した。近年の高等教育制度改革、それに伴う就職難問題に加え、従来の教育観や価値観に基づき、親に日本留学を勧められたり、日本留学を選択したりする事情がある可能性が示された。

第2章は中国人日本語学校生の進路状況、それに伴い直面する問題、ソーシャル・サポートに関する先行研究を概観した。中国人日本語学校生の抱える問題は進路領域において特に顕著であるものの、進路領域に限定したサポート研究はあまりされていないため、その現状を検討する必要性が示唆された。

第3章はBanduraの自己効力理論を概観した。その上で、進路選択自己効力とその関連要因に関する先行研究、これまで行われてきた進路選択自己効力への働きかけに関する先行研究を概観した。

第4章(研究1)は中国人日本語学校生が活用している進路サポート源と進路選択の際に理想とする日本語教師像を明らかにすることを目的とした。インタビュー調査の結果、進路選択の際に「ホスト国の進路サポート源」「同国の進路サポート源」からの進路サポートを得、「担任教師活用」「他の教師活用」ケースに大別されることが明らかになった。また、「心理援助者としての教師」「情報提供者としての教師」「熟達者としての教師」を理想とすることが明らかになった。進路選択に際して日本語教師による心理的サポートが特に重要であることが示唆された。

第5章(研究2)は日本語学校の教職員による進路サポートが中国人日本語学校生の進路選択自己効力にどのような影響を及ぼすか明らかにすることを目的とした。進路サポートについて因子分析を行った結果、「心理・指導サポート」「周辺的情報サポート」「基本的情報サポート」「機会提供サポート」の4因子が抽出された。また、進路選択自己効力について因子分析を行った結果、「計画遂行」「目標選択」「情報収集」「将来設計」の4因子が抽出された。さらに、進路選択自己効力を基準変数、進路サポート、

属性要因を説明変数とした重回帰分析を行い、中国人日本語学校生の進路選択自己効力に特に進路サポートの「心理・指導サポート」が影響を与えている可能性が示唆された。

第6章(研究3)は中国人日本語学校生の進路選択自己効力と進路探索行動との関連を明らかにすることを目的とした。進路探索行動について因子分析を行った結果、「環境探索行動」「自己探索行動」の2因子が抽出された。また、相関を見た結果、進路選択自己効力の「将来設計」と進路探索行動の「環境探索行動」、進路選択自己効力の「計画遂行」と進路探索行動の「環境探索行動」との間に正の相関があった。

第7章(研究4)は進路サポートの「心理・指導サポート」を参考にしたプログラムを行い、中国人日本語学校生の進路選択自己効力と進路探索行動は、参加群と非参加群とでは異なるか、プログラム受講後に参加群はどのような学びを得たか検討することを目的とした。分散分析を行った結果、プログラム受講後に参加群は非参加群と比べ、進路探索行動の「自己探索行動」を行う傾向が示唆された。また、プログラム受講で参加群は「新たな視点」「目標達成に向けた基盤」という2つの学びを得たことが明らかになった。

以上を踏まえ、第8章では研究結果の概要について述べ、中国人日本語学校生の進路選択における就業の意味付けと日本語能力に着目し、総合的考察を行った。本研究の意義はこれまで注目されてこなかった中国人日本語学校生の進路選択について進路選択自己効力を中心に明らかにし、今後どのようなサポートが必要か示したことである。今後は大学等進学後についても縦断的に追ひ、そのキャリアについて検討することを課題としたい。